甲　第　号

伊藤真理奈　学位請求論文

審　査　要　旨

奈　良　県　立　医　科　大　学

論 文 審 査 の 要 旨 及 び 担 当 者

論文審査担当者	委員長	教授	吉本　清巳
	委員	講師	石田　由佳子
	委員（指導教員）	教授	城戸　顕

主論文

Postoperative Rehabilitation Program for Increasing Muscle Mass in Patients With Hip Fracture: A Retrospective Study

股関節骨折患者の筋肉量増加のための術後リハビリテーションプログラム：後方視的研究

Marina Sajiki-Ito, Shinji Tsukamoto, Daisuke Bai, Mitsunori Tokuda, Katsuya Tamai, Naoki Takeguchi, Masayuki Sada, Yasuhito Tanaka, Akira Kido

Cureus 2024 Jun 24;16(6):e63053

論文審査の要旨

本研究では、大腿骨近位部骨折術後翌日から独自のリハビリテーションプログラムを用いて治療を行い、筋量や日常生活動作能力に与える影響を検討した。対象は、手術加療と 6 週間以上のリハビリテーション治療を行った 65 歳以上の大腿骨近位部骨折患者とし、診療録を参照し過去を起点とした前向き研究を行った。リハビリテーションプログラムは神経筋電気刺激、早期離床訓練を特徴としていた。アウトカムは術後 1 週と 6 週の体組成、筋力、日常生活動作・歩行能力であった。17 名を調査し、下肢骨格筋量、健側・患側の膝伸展筋力、日常生活動作能力が有意に増加し、上肢骨格筋量と体重は有意に減少していた。また、全身骨格筋量と脂肪量は有意な差がなかった。さらに、47.1%は受傷前よりも歩行能力が悪化していた。公聴会においては、神経筋電気刺激の根拠などについて問われ、過去の文献を引用しながら適切に回答された。また、手術の術式による結果の違いの有無、健側の筋力の改善の意義、上肢筋量低下の臨床的意義、異化亢進の可能性及び将来的な強化栄養療法の展望が質問され、本研究のデータを基盤に適切な回答と展望が述べられた。本研究は高齢の大腿骨近位部骨折術後、下肢骨格筋量を増加させるリハビリテーションプログラムを詳細に示したという点において、本領域のさらなる発展に寄与するものと評価され、主論文の内容と公聴会での質疑応答および参考論文と合わせて、審査委員のすべてが適と判断し、博士（医学）の学位に値する研究であると考える。

参　考　論　文

1. Influences of comorbidities on perioperative rehabilitation in patients with gastrointestinal cancers: a retrospective study

   Naoto Seriu, Shinji Tsukamoto, Yukako Ishida, Nobuki Yamanaka, Tomoo Mano, Yasuyo Kobayashi, Marina Sajiki-Ito, Yusuke Inagaki, Yuu Tanaka, Masayuki Sho, Akira Kido

   World J Surg Oncol 2023 Oct 26;21(1):336

2. Clinical questions on rehabilitation in cancer patients with skeletal metastasis: a content analysis of the multidisciplinary tumor board records

   Nobuki Yamanaka, Shinji Tsukamoto, Yukako Ishida, Hideki Shigematsu, Masatoshi, Hasegawa, Marina Sajiki, Tomoo Mano, Yasuhito Tanaka, Akira Kido

   Support Care Cancer 2021 Apr;29(4):2015-2020

3. 上肢骨折の病態と治療　橈骨遠位端骨折後の橈骨骨密度と手関節機能回復

   冨田 恭治, 桟敷 真理奈, 松井 満政, 玉井 克哉, 竹口 尚樹, 定 直行

   別冊整形外科 78 号 Page174-176(2020.10)

4. 難治性化膿性膝関節炎に対して血管柄付き腓骨移植術を併用し膝関節固定術を施行した 1 症例

   桟敷 真理奈, 小川 宗宏, 小畠 康宣, 田中 寿典, 速水 直生, 田中 康仁

   中部日本整形外科災害外科学会雑誌 59 巻 2 号 Page351-352(2016.03)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに運動器再建医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和 6 年 12 月 10 日

学位審査委員長

総合臨床病態学

教授　　吉本　清巳

学位審査委員

リハビリテーション医学

講師　　石田　由佳子

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教授　　城戸　顕